

----- (はじまり) -----

タケシ「あぁ…。もうどうすればいいんだろう…」

アスカ「どうしたの？何か二日酔いっぽい雰囲気出してるけど」

タケシ「昨日、合コンだったんですよ。営業部の同期に誘われていったのは良かったんですけど、僕は女の子に全然人気なくて…」

アスカ「ふーん。ルックスはそんなに悪くないのにね」

タケシ「そ、そうなんですか。異性から言われたの初めてですよ。じゃあ、一体何が原因なんですか？」

アスカ「そんなに食いつかなくても…。ええっと、そうね。トークが原因なんじゃない？」

タケシ「でも、モテる同期と似たような話題で話してるんですけど…」

アスカ「まぁ、人を好き嫌いになる決まった法則があるわけじゃないから、何とも言えないけど…。生物学的なことを言えば、遺伝子的に異なる相手を無意識に探すらしいわよ。ほら、匂いの実験は有名よね」

タケシ「匂いですか？僕、デオドラントには気をつけてるんですけど」

アスカ「そういうじゃなくて、ルックスや所得といった相手の情報を一切遮断して、汗の付いたシャツを嗅いでもらって、匂いだけで好き嫌いを決めてもらうのよ」

タケシ「何か…とてもディープな合コンですね」

アスカ「それがね。匂いで決めたカップルって結局は長続きすることが分かったのよ。匂いで遺伝子レベルの相性を感じ取ってるのかもね」

タケシ「じゃあ、どうしようもないじゃないですか。まさか、汗だくだくで行けないし…」

アスカ「もう、しょうがないわね。それじゃあ、合コンで女の子に好かれる必殺技を教えてあげるわよ」

タケシ「そ、そんなのがあるんですか！？是非、お願いします！」

アスカ「女性に音楽の話題を持ち出すの。そして、さりげなくギターが弾けることをアピールするのよ」

タケシ「ギ、ギターですか？いまどき、流行らないんじゃない...」

アスカ「それがね。海外で面白い実験があって、イケメンの男性を使って300人の女性にアタックしてもらったのよ」

タケシ「それって...、要はナンパですよ」

アスカ「まあ、そうね。電話番号をゲットできたらアタック成功よ。ただし、何も持っていない姿とスポーツバッグを持っている姿、ギターケースを持っている姿の3パターンでね」

タケシ「なるほど。姿が違うことで返答がどう変わるかってことですね」

アスカ「ノーマル、アスリート、ミュージシャンの3択って感じね。結果のデータがこれよ」

電話番号を聞いた人

| | |
|---------------|------|
| ===== | |
| 何も持っていない | 27人 |
| スポーツバッグを持っている | 42人 |
| ギターケースを持っている | 100人 |

タケシ「ギターの圧勝じゃないですか！？3人に1人の成功率ですよ。でも...何も持っていないときと何か持っているときでは会話内容も変わるかもしれないですよ。明らかに持ってるものに話題が集中するじゃないですか」

アスカ「鋭いわね。どんな言葉で誘ったかまでは実験に書いてないからね」

タケシ「もっと、ギターの有無ではっきり分かる実験ってないんですか？」

アスカ「それがね、フェイスブックを使った実験もあるのよ。同じ人が2種類の写真を用意するの。1つは何も持っていない写真。もう1つはギターと一緒に写っている写真よ」

タケシ「また、選ばせるんですね。今度は写真以外の情報はないから、白黒ははっきりするかもしれませんね」

アスカ「そうね。実験は100人の女性に『君、カワイイね』と容姿を褒めるメッセージを送って、好意的な返事が返ってくるかどうか調べたの。送った男性のフェイスブックを見れば2種類のどちらかの写真があ

るから、それで判断するわけね。だから、選ぶって言うより返答率を計る感じね」

タケシ「普通、気持ち悪いですよ。いきなりそんなメッセージ貰っても」

アスカ「日本と違って海外は露骨に声かけるのもありなのかもね。それで、結果は次のとおりよ」

返答メッセージ 好意的 そうでない

=====

| | | |
|---------|-----|-----|
| 男性だけ | 10人 | 90人 |
| ギターと一緒に | 28人 | 72人 |

タケシ「ギターと一緒に写っていると好意的な返答が3倍弱も増えてる...」

アスカ「母比率の差の検定でも-3.24443ね。統計的にも有意差ありよ。明らかにギターと一緒に写った方がナンパ成功確率が跳ね上がるわね」

タケシ「統計的にもそうですけど、やっぱり見た目に3倍もあると信じられますよね。でも、何でギターなんですかね？」

アスカ「うーん。分からないけど、女性は男性の指先を無意識に見てるって話もあるのよね。薬指が長い人は男性ホルモンが多いそうだから、自分でも気付かないうちに男性の指の長さを測ってるのかもね」

タケシ「要は間接的に男らしい人を探しているってことか...」

アスカ「女性にも意外に指フェチは多いのよ。ギターのネックを持つ左手が複雑な動きをしていると魅力を感じるのかもね」

タケシ「先輩もなんですか？」

アスカ「そりゃ、大きな手で華麗にコードを押さえているのを見るのは悪くないわよ」

タケシ「へえー」

アスカ「何よ！何か悪い？」

タケシ「いえ、先輩も女性なん x z d ; h 8 7 x え g ...っ痛！また、叩かれた」

アスカ「失礼なこと言うからよ」

タケシ「でも、一つ問題が...」

アスカ「何よ」

タケシ「僕、ギター弾けないんですけど...」

アスカ「そんなの、先に興味を持ってくれた女の子をゲットしてからでも、練習すればいいじゃない」

タケシ「ギターって、そんな簡単じゃないでしょ。それなりにカッコよく弾けるには凄く時間が掛かるような...」

アスカ「だから、モテるんでしょう。簡単だったらそんな魅力感じないわよ。もし、後でギターが弾けませんでしたなんてなったら、即破局ね」

タケシ「ええ！それじゃ、諸刃の剣じゃないですか！上手くなるまで合コンでギターの話には触れられませんよ」

アスカ「あんた本当に馬鹿ね。上手い下手じゃないの。ギターに真剣に取り組んでいる姿を見ても、女は惚れるのよ！」

タケシ「じゃ...、先輩が興味を持ってくれるなら始めますよ」

アスカ「えっ？な、何言ってるのよ。し、仕事に集中してよね。ったく！」

----- (つづく) -----